



**防災**  
から  
つながる

町内の避難経路を設計する冬季防災訓練の一コマ。地域の安全安心をみんな真剣に考える。

いざというとき頼りになるのは、遠くの親戚より近くの他人。「お隣さんは大丈夫かな」、そう思いあえる地域こそ、安心して暮らせる場所。



**カフェ**  
から  
つながる

地域にある教会の会堂を開放し、月2回開かれる「カフェ優しい時間」。常連さんの笑顔があふれる。

おいしいものと、くつろげる空間があれば、笑顔があふれて、話は尽きない。顔が見える関係は、いつの時代も変わらず大事。



**町内会**  
から  
つながる

町内会が担っている役割はたくさんある。地域の安心を生み出す「見守り活動」も、その大切な一つ。

地域の安全や安心は、地域のみんなで創っていく。「地域」って、場所じゃなく、「そこに住んでいる人の集まり」なのかもしれない。



**放課後**  
から  
つながる

放課後の教室で地域の人と子どもたちが集まる、子どもの居場所づくり事業。卒業して支える側の一員になる人も。

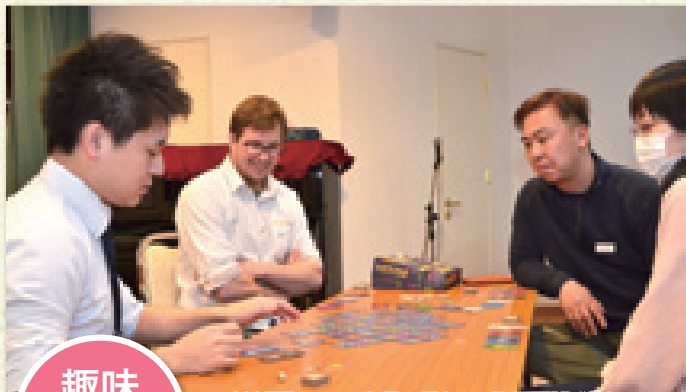
子どもたちを地域みんなで見守って、育てていく。そんな、昔は当たり前だった風景が、ここにはある。



**子育て**  
から  
つながる

小さな頃から良い絵本に触れてほしいと、5カ月児健診で絵本をプレゼントするボランティア活動。

人生の先輩たちが、子育て真っ最中の人たちを支える。地域全体で子どもたちを育てていくことは、地域の活力を生み出すために大切なこと。



**趣味**  
から  
つながる

ボードゲームが好き。その気持ちだけで始まった「ボードゲームの集い」。長時間、熱戦が続くことも。

大好きなことを一緒にできる仲間がいるだけで、コミュニティは生まれる。年代も、性別も、国籍も越えて、「楽しい」を中心に、人はつながる。

広報  
**おびひろ**  
Public Information OBIHIRO

平成31年  
(2019年) **3**  
No.1138  
March

発行：帯広市  
編集：政策推進部広報広聴課  
〒080-8670  
帯広市西5条南7丁目1番地  
電話(0155)24-4111  
FAX(0155)23-0151  
帯広市ホームページ  
<https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/>

**データで知る帯広**

**1月末の人口と世帯数**

人口▶166,802人  
(前月比-87人)  
男▶79,553人  
女▶87,249人  
世帯▶87,645世帯  
(前月比-26世帯)

**1月の火災発生件数**

4件 (前月比±0件)

**1月の家庭ごみ排出量**

ごみ量 1,993t  
(前年同月比+54t)  
資源ごみ(Sの日)量 682t  
(前年同月比+17t)

**今月の紙面**

**絆深まる姉妹都市 … 4**



市では、異なる文化と触れ合い、人と人とのつながりを通じて、魅力ある地域づくりを進めるため、国内外の都市と交流を行っています。

産前産後期間の国民年金保険料が免除に …… **5**

春の転入・転出届などの受付時間を延長します …… **9**

タベルナ・ラ・オビヒロ「黒千石とゆり根ごはん」 **12**

**特集**  
これからの  
地域コミュニティ

**つながりが生み出す  
まちの新しいカタチ**

**問い合わせ** 市民活動推進課(市庁舎3階、☎65・4130)

**地域コミュニティの大切さ**

誰もが幸せに暮らせる地域づくりを進めるには、ここに住む私たちがつながり、互いに支え合い、助け合うことが大切です。

最も身近なコミュニティである町内会は、これまで防犯や交通安全、親睦行事、葬儀の手伝いなど、互いに協力し合いながら、さまざまな地域課題への対応のために取り組んできました。

**つながり方の変化**

近年は、インターネットや携帯電話の普及、人々の価値観の多様化などに伴い、人と人とのつながり方も変わりつつあり、町内会活動への関心の低下や、近所付き合いが希薄になってきているといわれています。

**これからの地域コミュニティ**

しかし心の中では、「誰かとつながっていたい」「困ったときに助け合いたい」「安心して暮らしたい」という思いを、私たちは持っているのではないのでしょうか。

今月号では、町内会を中心に地域コミュニティの現状と課題から、これからの「人と人とのつながり」の形について、皆さんと共に考えてみたいと思います。

# 町内会のこれからのカタチ

市では、今後の地域コミュニティの活性化の取り組みの参考とするため、平成30年7月、町内会役員と市民を対象に、「地域実態調査」を実施しました。その中であげられた課題と、解決のための工夫や取り組みの一部を紹介します。

## <町内会が抱える課題>

- 役員の高齢化や後継者不足
- 町内会からの脱退者や未加入者の増加
- 行事の参加者が少ない
- 行事の準備に人手が足りない など

## 参加・加入促進や負担軽減に向けた取り組み例

### 準会員制度

気軽に町内会の一員となれるよう、会費を安くしたり、役員になるのを免除したりする「準会員制度」を導入。アパートやマンション住まいの人、高齢者の多い地域では、この制度を積極的に活用し、町内会加入率が90%を超えているところもある。

### 行事の見直し・集約化

参加者募集や準備の負担の軽減のため、行事を一日にまとめて開催したり、同じような行事を行っている近隣の町内会と合同で開催した。

(例)午前中に清掃活動と防災訓練、昼食を兼ねて懇親会



### 役員のリレー制

町内会長や庶務、会計といった役員について、班で持ち回りにするなどして、特定の人に負担が大きくなるよう配慮する仕組みをつくった。



### 行政による支援策

#### ▼加入促進のチラシリニューアル

転入者に向けて、町内会が地域で果たす役割や加入のメリットなどを伝えるためのチラシを用意。配布により加入者が増えた地域もあった。

利用希望の際は、市民活動推進課に連絡するか、市ホームページからダウンロードしてお使いください。



▲チラシダウンロード

## 災害時に発揮する地域の力

昨年9月、胆振東部地震により、私たちは北海道全域が停電するブラックアウトを経験しました。停電により、多くの人が実感したのは、私たちの日常生活を支えている高度な文明社会のもろさでした。災害などで生活の基盤が失われたとき、大切になるものはなんでしょう。



がれきに挟まれた人を救助する市の防災訓練

必要な情報の伝達や避難する際の判断、避難所での生活などを円滑に行うための下支えとなるものは、日頃の「地域のつながり」ではないでしょうか。

阪神淡路大震災では、がれきに埋まった人の、77・1%が近隣の人などによって救助され、日頃の

地域のつながりの大切さが再認識されたといわれています。

## 町内会が果たす役割

防災だけでなく、町内会が身近な地域で果たしている役割は大きく、日々の私たちの暮らしに密接に関わる活動が、多岐にわたって進められています。

- 美化** 町内のゴミステーションや公園などがきれいに保たれる
- 安全** 登下校時の見守りや防犯パトロールの実施、防犯灯の設置によって安心して暮らせる
- 防災** 防災訓練をすることで、いざというときに備えられる
- 情報** 広報おびひろや地域に密着した情報が届く など

## さまざまな組織との連携



町内会による公園・花壇の管理

こうした取り組みが行われなくなると、将来的に暮らしにくくなってしまふことが懸念されます。町内会など地域コミュニティの活性化は、身近な地域、さらには元気で住みよいまちづくりには欠かせない重要な要素の一つとなっています。

近年、町内会が企業や、NPOをはじめとする市民活動団体などと連携して、身近な地域の課題解決や活性化に取り組む事例が全国的に広がってきており、市内でも町内会と社会福祉法人が連携した取り組みが行われています。(図1)

**連携による新たな可能性**

こうした連携により、町内会が担い手不足によって実施できなかった行事が行えるだけでなく、団体や企業などが持つ知識などを得られたり、さまざまな人と関わることで、新たなつながりをつくることができます。

また、団体や企業にとっては、地域貢献活動に取り組むことにより、住民からの信頼感を高め、事業活動でのつながりを得ることが期待されます。

## 図1 町内会×企業

地域貢献への思いや、実際の取り組みを通じて感じたことなど、インタビューを行いました。

老人福祉施設などを運営している社会福祉法人刀圭会では、町内会と連携し、防災の取り組みをはじめ、施設利用者・職員と、地域住民の交流を深めるためのさまざまな事業を行っています。

### 答えてくれた人



社会福祉法人刀圭会 法人本部事務局長 前川雅志さん



同 事務局次長 荒屋敷典光さん

### Q 地域貢献に取り組もうと思ったきっかけは？

**A** 「自分たちも地域で暮らす者、町内会員である」との認識から、当法人が持つさまざまな資源を地域で有効活用してもらうことが大切だと考えました。東日本大震災を受け、改めて災害への備えが重要だと感じ、町内会と協議を重ね、一緒に防災訓練を実施するようになりました。

### Q 町内会との関わりを増やして良かったと感じたことは？

**A** 当法人への理解が深まったこと、お互いに顔が見える関係が出来上がったことです。

また、昨年の大規模停電の際は、施設の電源や風呂を地域利用していただく一方で、町内会の皆さんが施設利用者の安全確認のために数回訪問してくださるなど、支え合い、助け合う関係性が構築されてきました。

### Q 現在の取り組みは？

**A** 町内会の盆踊りに施設利用者・職員が参加している他、施設を月に1回程度開放し、町内会の皆さんと施設利用者がカラオケで交流するための場づくりなどを行っています。



町内会の盆踊りに参加する利用者

### Q 今後、地域と取り組んでいきたいことは？

**A** 町内会と一緒に、高齢者が参加できるような取り組みや、災害時に支援を必要とする人へのアプローチを考えたり、地域住民が介護や医療を不安なく受けられる環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。

## 町内会活動に関わるお悩み・質問は市民活動推進課へ!

気軽に問い合わせください。

### 例えばこんな相談を受けています

- 【町内会加入者】**
- 負担の大きい業務を見直したい
  - 組織の改善を図りたい
  - 他の町内会の取り組み事例を知りたい
  - 会費はどのくらいが良いのか知りたい
- 【町内会未加入の人】**
- 町内会加入のため、会長と連絡を取りたい
  - 利用可能なゴミステーションの場所を知りたい
  - 夏休みのラジオ体操の開催場所を知りたい
  - 町内会の資源回収に協力したい など

### 簡単申し込み

町内会への加入申し込みはこちら→



## 図2 まちづくりの新しい参加のカタチ

「まちづくり」と聞くと、何かとても大きなことのように感じるかもしれませんが、自分の興味のあることや自分のことで、まずは集まり（コミュニティ）に参加してみる事が大切です。楽しみながら集い、互いに支え合うコミュニティがどんどん増え広がっていくことで、「まち」はつくられていくのではないのでしょうか。皆さんはどんなコミュニティに関心がありますか？ここでは新しい取り組みの一部をご紹介します。

### 地域×子育て

#### 地域子育て支援センター

問 子育て支援課（東8南13、保健福祉センター内、☎25・9700）

市内6カ所の保育所（園）に併設されていて、各種「広場」や「子育て講座」などを開催しています。

##### <妊娠中の人や子育て中の人>

保護者と子どもが遊びながら、子育ての情報交換や悩みの相談、共有ができます。



地域子育て支援センター

##### <地域の皆さん>

地域の子育てボランティアとして、「広場」事業のサポート、おもちゃなどの手作り作業、人形劇、遊びの提供などから選んで活動できます。



子育て応援ボランティア

#### 地域子育て支援センターマップ



今後さらに重要になる  
多様なつながり

人口減少が進む中、今後、町内会がこれまで果たしてきた役割を担い続けることは、困難になっていくことが予想されます。地域コミュニティの活性化に当たっては、

町内会だけでなく、いろいろな担い手が互いに連携し、協力し合うことが重要になってきます。帯広市でも、すでにさまざまな取り組みがなされており、家族構成や年代、興味などに応じて参加できる場が広がっています。

また、他自治体では、インターネットを活用して町内会とNPOなどの「やってみよう」と「これができる」をつなぐ取り組みを進めている事例もあり、帯広市もこうした事例を参考にしながら、多様な担い手の結び付きを促進するための取り組みを検討していきま

#### まちづくり参加への新たな一歩

地域社会を取り巻く環境が大きく変化していく中で、帯広市がこれからも快適で住みよいまちであり続けるためには、行政による取

り組みに加え、一人でも多くの市民の皆さんが、まちづくりに対して自分は何が出来るのかを考えて、参加していくことが大切です。参加の機会、町内会への加入や、市民活動団体・ボランティア団体での活動など、さまざまです。

まちづくりは、自分の周りから、できることを始めることが大切です。大きな事を成し遂げることが、けがまちづくりではありません。まずは、自分に合った方法で、つながりをつくり、楽しみながらまちづくりへの第一歩を踏み出してみませんか。

### 地域×学校

#### 子どもの居場所づくり事業

問 青少年課（市庁舎3階、☎65・4162）

地域のボランティアやNPO法人の運営により、小学校の放課後や週休日に、子どもたちが安全に安心して過ごせる居場所を設ける取り組みを行っています。

##### <地域の皆さん>

子どもの居場所づくりボランティアとして、子どもと触れ合いながら、さまざまな活動を行います。



子どもの居場所づくり事業



小さな子どもがいても大丈夫！  
子どもと一緒に楽しみながら活動しています

つつじっ子クラブみまもり隊  
コーディネーター 山本さん

みまもり隊に参加したきっかけは、自分の子どもが小学校に通っていたからですが、幼稚園に通う下の子どもと一緒に遊ばせる事ができたり、「誰かに無理がかからないように」「自分たちのできる範囲」というみまもり隊の雰囲気が気に入り、3年間続けています。

「つつじっ子まつり」などの大イベントは、町内会や他団体などのコミュニティとも協力し合っています。これからも子どもたちが安心して成長できる地域づくりの手助けを、楽しみながらやっていきたいです。

得意なことや出来る事を生かして  
居場所づくりのお手伝いをしています

みどりっ子クラブ  
ボランティア 松崎さん

居場所づくりのボランティア活動を始めて約10年になります。活動の中では、自分がもともと好きで学んでいた十勝の地理や、書道の教室を行っています。地域の人間として、自分の「得意なこと」や「好きなこと」を生かし、子どもたちの居場所づくりを行うことは、自分自身にとっても楽しいので、今後もみどりっ子クラブでの活動を続けていきたいです。



子どもたちの居場所を一緒に作っていきませんか

### 地域×NPO・ボランティア

#### NPOの相談先

問 市民活動交流センター（西2南8、ふじまるビル8階、☎20・3004）

市民活動交流センターの市民活動情報室では、新たにNPOを立ち上げたい人や、NPOに参加したい人などの相談を受け付けています。

（相談受付時間：月・水・金曜日の13時～17時）

#### ボランティアの相談先

問 帯広市社会福祉協議会（公園東町3、グリーンプラザ内、☎21・2454）

帯広市社会福祉協議会のボランティアセンターでは、ボランティア活動に興味のある人や、支援を求めている人の相談を受け付けています。また、各施設からのボランティア募集情報の掲示を行っています。

（相談受付時間：月～金曜日の10時～18時）

#### ポータルサイトもご覧ください！

市民と行政が力を合わせて、より良いまちづくりを行う市民協働。市ホームページとフェイスブックでも、市民活動団体の活動内容やボランティアの募集、イベント情報などを紹介しています。ぜひ、ご覧ください。



▲市民協働ポータルサイトのページはこちら